

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月7日

【四半期会計期間】 第74期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)

【会社名】 株式会社ナカボーテック

【英訳名】 Nakabohtec Corrosion Protecting Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 名井 肇

【本店の所在の場所】 東京都中央区新川二丁目5番2号

【電話番号】 03(5541)5801

【事務連絡者氏名】 経理部長 野原 靖之

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区新川二丁目5番2号

【電話番号】 03(5541)5801

【事務連絡者氏名】 経理部長 野原 靖之

【縦覧に供する場所】 株式会社ナカボーテック東関東支店
(千葉県市原市五井金杉二丁目2番2号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第73期 第3四半期累計期間	第74期 第3四半期累計期間	第73期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	6,868,805	6,588,861	10,846,560
経常利益 (千円)	54,324	102,364	806,009
四半期(当期)純利益 (千円)	23,065	55,825	504,718
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	866,350	866,350	866,350
発行済株式総数 (株)	5,205,000	5,205,000	5,205,000
純資産額 (千円)	6,310,889	6,587,187	6,780,088
総資産額 (千円)	9,255,777	9,505,196	9,980,288
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	4.46	10.81	97.69
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	50
自己資本比率 (%)	68.18	69.3	67.9

回次	第73期 第3四半期会計期間	第74期 第3四半期会計期間
会計期間	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.04	33.14

(注) 1. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におきましては、引き続き港湾インフラ整備案件が堅調に推移し、受注高は前年同期と同水準の8,695百万円となりました。売上高は、6,588百万円と工事の立ち上がり及早かった前年同期と比べ279百万円の減となりましたが、受注残高は期首より2,106百万円増、前年同期末に比べ231百万円増の4,110百万円を確保しております。

損益面では、効率的な工事消化やコストダウンによる収益向上に努め、当第3四半期累計期間の経常利益は102百万円（前年同期は54百万円）となり、四半期純利益は55百万円（前年同期は23百万円）となりました。売上高及び利益が第4四半期会計期間に集中する事業特性から、業績予想の確実な達成を図ってまいります。

セグメント別の概況は以下のとおりです。

港湾事業につきましては、引き続きインフラの維持・補修に対する要請・関心は高く、受注高は、前年同期に比べ702百万円増の5,171百万円となりました。売上高は、前年同期に比べ86百万円増の3,835百万円となりました。

地中事業につきましては、受注高は、前年同期に比べ223百万円減の1,901百万円となり、売上高は、同109百万円減の1,245百万円となりました。

陸上事業につきましては、受注高は、防汚大型工事の受注があった前年同期と比べ502百万円減の735百万円となりましたが、売上高は、同工事の進捗が寄与し前年同期に比べ38百万円増の954百万円となりました。

その他につきましては、受注高は、前年同期に比べ10百万円増の887百万円となり、売上高は、海外大型工事の完成があった前年同期と比べ295百万円減の553百万円となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期累計期間における研究開発費は、総額で107百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,020,000
計	19,020,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年2月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,205,000	5,205,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。
計	5,205,000	5,205,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年10月1日～ 平成28年12月31日	—	5,205,000	—	866,350	—	753,385

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成28年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 38,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,127,000	5,127	—
単元未満株式	普通株式 40,000	—	—
発行済株式総数	5,205,000	—	—
総株主の議決権	—	5,127	—

② 【自己株式等】

平成28年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ナカボーテック	東京都中央区新川2-5-2	38,000	—	38,000	0.74
計	—	38,000	—	38,000	0.74

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新 役 職 名	旧 役 職 名	氏 名	異動年月日
代表取締役副社長 兼 執行役員 事業統括本部長 兼 東京支店(除く北海道営業所・北陸営業所)、経営企画室主管	代表取締役副社長 兼 執行役員 事業統括本部長 兼 経営企画室主管	渡辺 多喜男	平成28年10月24日
取締役 兼 執行役員 事業統括本部 大阪支店、 経理部、総務部、安全環境室主管	取締役 兼 執行役員 事業統括本部 大阪支 店、経理部、総務部主管	霜出 行雄	平成28年10月24日
取締役 兼 執行役員 内部監査室、製造・調達部 主管 兼 製造・調達部長	取締役 兼 執行役員 製造・調達部主管兼 製 造・調達部長	真殿 宏	平成28年10月24日
取締役 兼 執行役員 事業統括本部 東京支店長	取締役 兼 執行役員 事業統括本部 東京支店 (除く北海道営業所・北陸営業所)、 内部監査室、安全環境室主管 兼 東京支店長	高橋 徹	平成28年10月24日

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社はありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	683,042	457,594
受取手形	※2 813,070	※2 1,089,891
完成工事未収入金	3,118,506	2,641,972
売掛金	294,329	266,665
商品及び製品	297,018	391,658
未成工事支出金	71,215	411,758
材料貯蔵品	44,139	61,675
繰延税金資産	112,309	112,309
関係会社預け金	3,469,754	2,882,932
その他	54,876	171,638
貸倒引当金	△3,397	△3,199
流動資産合計	8,954,864	8,484,898
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	180,705	176,919
その他（純額）	231,706	219,720
有形固定資産合計	412,411	396,640
無形固定資産	30,811	26,728
投資その他の資産		
繰延税金資産	280,239	275,590
その他	313,830	333,206
貸倒引当金	△11,867	△11,867
投資その他の資産合計	582,201	596,929
固定資産合計	1,025,424	1,020,297
資産合計	9,980,288	9,505,196
負債の部		
流動負債		
支払手形	※2 854,048	※2 670,853
工事未払金	563,983	581,938
買掛金	83,884	119,251
未成工事受入金	44,564	136,506
完成工事補償引当金	25,852	20,027
工事損失引当金	12,010	72,109
賞与引当金	220,000	110,000
その他	479,677	270,239
流動負債合計	2,284,021	1,980,925
固定負債		
退職給付引当金	817,669	837,141
役員退職慰労引当金	67,255	69,677
資産除去債務	27,125	27,511
その他	4,129	2,752
固定負債合計	916,178	937,083
負債合計	3,200,199	2,918,008

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	866,350	866,350
資本剰余金	753,385	753,385
利益剰余金	5,125,043	4,922,551
自己株式	△21,688	△22,631
株主資本合計	6,723,090	6,519,655
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	56,998	67,532
評価・換算差額等合計	56,998	67,532
純資産合計	6,780,088	6,587,187
負債純資産合計	9,980,288	9,505,196

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高		
完成工事高	5,747,979	5,531,798
製品等売上高	1,120,826	1,057,063
売上高合計	※ 6,868,805	※ 6,588,861
売上原価		
完成工事原価	4,860,787	4,528,846
製品等売上原価	659,980	580,449
売上原価合計	5,520,768	5,109,295
売上総利益		
完成工事総利益	887,191	1,002,952
製品等売上総利益	460,845	476,613
売上総利益合計	1,348,037	1,479,566
販売費及び一般管理費	1,326,696	1,406,724
営業利益	21,340	72,841
営業外収益		
受取利息	18,964	14,635
受取賃貸料	6,763	7,565
その他	7,271	7,331
営業外収益合計	32,999	29,533
営業外費用		
その他	15	10
営業外費用合計	15	10
経常利益	54,324	102,364
特別損失		
固定資産除却損	35	105
特別損失合計	35	105
税引前四半期純利益	54,289	102,258
法人税、住民税及び事業税	31,223	46,432
法人税等合計	31,223	46,432
四半期純利益	23,065	55,825

【注記事項】

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第3四半期累計期間において、四半期財務諸表への影響額は軽微であります。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(原価差異の繰延処理)

定期的な修繕が特定の四半期に行われるために発生する原価差異は、予定原価が年間を基礎に設定されており、原価計算期間末までに解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産（その他）として繰り延べております。

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期会計期間から適用しております。

(四半期貸借対照表関係)

1 保証債務

財形持家融資制度及び住宅資金斡旋制度に基づく従業員の銀行借入に対し、次のとおり保証を行っております。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
	3,021千円	2,617千円

※2 四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が四半期会計期間末日残高に含まれております。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形	—	24,648千円
支払手形	—	136,543千円

(四半期損益計算書関係)

前第3四半期累計期間（自平成27年4月1日至平成27年12月31日）及び当第3四半期累計期間（自平成28年4月1日至平成28年12月31日）

※ 当社の売上高は、主たる事業である建設事業において、契約により工事の完成引渡しが第4四半期会計期間に集中しているため、第1、第2及び第3四半期会計期間における売上高に比べ、第4四半期会計期間の売上高が多くなる傾向があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
減価償却費	55,278千円	59,875千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	232,506	45	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

II 当第3四半期累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	258,317	50	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	港湾	地中	陸上	計		
売上高	3,749,482	1,354,893	915,444	6,019,819	848,986	6,868,805
セグメント利益又は損失(△)	605,950	286,732	335,097	1,227,780	120,257	1,348,037

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国際事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,227,780
「その他」の区分の利益又は損失(△)	120,257
全社費用(注)	△1,326,696
四半期損益計算書の営業利益	21,340

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	港湾	地中	陸上	計		
売上高	3,835,577	1,245,537	954,051	6,035,166	553,695	6,588,861
セグメント利益又は損失(△)	770,743	256,940	416,618	1,444,303	35,262	1,479,566

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国際事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,444,303
「その他」の区分の利益又は損失(△)	35,262
全社費用(注)	△1,406,724
四半期損益計算書の営業利益	72,841

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	4円46銭	10円81銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	23,065	55,825
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	23,065	55,825
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,166	5,166

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年2月3日

株式会社ナカボーテック
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 島 祥 朗 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 戸 谷 且 典 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ナカボーテックの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第74期事業年度の第3四半期会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ナカボーテックの平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。